

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①学年に応じた語句を習得し活用できる語彙力。 ②正確に四則計算ができる計算力。 ③既存の知識・技能と関連付けたり、組み合わせたりしていく力。	④問題や課題を発見する力。 ⑤他者対話や議論をする場において、自分の考えをもち、説明する力。 ⑥共通点や相違点を理解し、協力しながら問題や課題を解決していく力。	⑦主体的に学習に取り組む態度。 ⑧問題に対して様々な方略を用いて粘り強く取り組む力。 ⑨多様性を尊重して、協働しようとする態度・優しさ・思いやり等、人間性に関するもの。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、⑤	①言葉のまとまりを意識して音読を行う。 ⑤考える視点を明確にし、自分の考えをもてるようにする。	
算数	②、⑥	②計算の方法や量の測定方法を具体物や図などを用いて可視化させる。 ⑥共通点や相違点を理解し、協力しながら問題や課題を解決させる。	
生活	④、⑨	④活動や体験を通して得られた気づきを質的に高めるために、活動や体験と振り返りとのつながりを重視する。 ⑨生命の尊さや自然事象について体験的に学習したことを実生活に活かす。	
音楽	①、③	①楽曲の曲想を感じ取って歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現を工夫し自分の思いをもって歌う。 ③音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いたり、楽曲や演奏の楽しさに気付いたりする。	
図画工作	⑦、⑨	⑦いろいろな形や色を見付けたり選んだり、触った感じを確かめたりする活動をする。 ⑨お互いの作品が目に入るような活動の配慮や、友達と関わりながら活動する場面を設定する。	
体育	⑦、⑨	⑦児童が多くの運動にふれあう機会を増やして楽しく運動できるようにする。 ⑨友達と協力して運動する場を準備したり、片付けをしたりさせる。	
英語活動	⑤、⑦	⑤ALT との交流の場を設定し、英語に自然と慣れ親しむことができるようにする。 ⑦体全体を使って取り組むゲームや歌を導入に取り入れる。	
特別の教科 道徳	④、⑥	④役割演技や動作化を取り入れる等、主人公の気持ちを捉えやすくなるような指導の工夫をする。 ⑥自分の考えを発信するために少人数で話し合う活動を取り入れ、自分と異なる意見を認め合えるようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①学年に応じた語句を習得し活用できる語彙力。 ②正確に四則計算ができる計算力。 ③既存の知識・技能と関連付けたり、組み合わせたりしていく力。	④問題や課題を発見する力。 ⑤他者と対話や議論をする場において、自分の考えをもち、説明する力。 ⑥共通点や相違点を理解し、協力しながら問題や課題を解決していく力。	⑦主体的に学習に取り組む態度。 ⑧問題に対して様々な方略を用いて粘り強く取り組む力。 ⑨多様性を尊重して、協働しようとする態度・優しさ・思いやり等、人間性に関するもの。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、③	①辞書を活用して語句を調べることで言葉に親しませる。 ③文章叙述や絵・図などから、想像力を働かせながら読ませるとともに自分の表現したいことを書かせる。	
社会	⑤、⑨	⑤児童の実態に応じた資料を工夫することにより、学習問題を導き出す。 ⑨地図や写真などの資料から、地域の歴史と伝統や工夫などを知る、地域学習を重視する。	
算数	②、⑥	②習熟度に応じた適用問題を解く時間を設定する。 ⑥思考した過程や結果などを数学的な表現を用いて伝え合う機会を設ける。	
理科	④、⑤、⑨	④既習事項や生活体験などから、根拠ある予想や仮説をたてると共に、観察・実験から分かったことを基に新たな問題や課題に気付く機会を設ける。 ⑤他者との交流を通して、自分の考え(予想や考察)を広めさせる。 ⑨季節ごとの動物の活動や植物の成長を観察する活動を通して、生物愛護の態度を養うとともに、環境との関わりについての見方や考え方を養う。	
音楽	⑥、⑦	⑥表現の支えとなる歌い方を身に付け、友達の歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて自分の声を合わせたりする。 ⑦音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴いたり、楽曲や演奏の楽しさに気付いたりする。	
図画工作	③、⑤	③形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを捉えることができるよう、活動の時間を十分に確保して児童が活動を通して色の変化などを味わうようにする。 ⑤捉えたことを友達と確かめたり、言葉で伝え合ったりする機会を設ける。	
体育	⑦、⑧	⑦最後まで諦めずに取り組んだり、力一杯運動に取り組ませたりして運動を楽しくできるようにする。 ⑧活動する場の工夫をしたり、教具を工夫したりする。	
外国語活動	①、⑦	②チャンツや歌を歌うことにより、楽しみながら英単語に慣れる。 ⑦世界の文化に興味を持たせるよう、写真資料や具体物を提示する。	
特別の教科 道徳	⑥、⑨	⑥少人数のグループで話し合う活動を取り入れ、多様な考え方を認め合う場を設定する。 ⑨アンケートの結果を活用する等、生活経験を振り返る活動を取り入れ、自分事として道徳的価値について振り返るようにする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

2 学力向上を図る取組

(1) 各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①学年に応じた語句を習得し活用できる語彙力。 ②正確に四則計算ができる計算力。 ③既存の知識・技能と関連付けたり、組み合わせたりしていく力。	④問題や課題を発見する力。 ⑤他者対話や議論をする場において、自分の考えをもち、説明する力。 ⑥共通点や相違点を理解し、協力しながら問題や課題を解決していく力。	⑦主体的に学習に取り組む態度。 ⑧問題に対して様々な方略を用いて粘り強く取り組む力。 ⑨多様性を尊重して、協働しようとする態度・優しさ・思いやり等、人間性に関するもの。



教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、⑤	①辞書で調べたり、言葉のたから箱を活用したりして、自分の考えや感想を書く活動に親しみ、語彙を増やす。 ⑤読むことを通して自分の考えをもち、理由や事例などを挙げながら交流させる。	
社会	④、⑥	④観察、調査、体験から得た気づきを表現する活動を重視する。 ⑥ICT機器や地域の力を活用して、疑似体験を重ね、自らの生活と結びつける活動を重視する。	
算数	②、⑧	②習熟度に応じた適用問題を解く時間を設定する。 ⑧対話的に伝え合うことにより、よりよい解法を考えさせる。	
理科	③、⑨	③自然の事物・現象について複数の実験を行い、その結果を基にして多面的に考察することができるようにする。 ⑨観察・調査・実験する活動を通し、環境と人間との共生について考えさせ、生命を尊重し自然を愛する態度を養う。	
音楽	③、⑨	③音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴き、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する。 ⑨各声部の歌声や全体の響き、伴奏を聴いて、自分の声を友達の声と調和させて歌う。	
図画工作	⑤、⑧	⑤鑑賞する活動において、話し合ったり言葉で整理したりするなど具体的に捉える機会を設ける。 ⑧動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉えることができるように、児童に具体物を見せる。	
家庭	⑤、⑥	⑤住まい方や衣服の着方を工夫し、年間を通して自分の生活を快適に過ごせるように班で話し合う活動を行う。 ⑥身近な人や環境に感謝の気持ちを伝えるための計画を話し合い、よりよい生活の工夫ができるようにする。	
体育	③、⑧	③基本的な動作や技のポイントを理解させて運動に取り組む。 ⑧協力・公正などの態度を育成し、その中で自己の最善を尽くして運動できるようにする。	
外国語科	⑦、⑨	⑦チャンツ・歌・ゲーム等を通して、児童が外国語活動を楽しめるようにする。 ⑨映像資料を視聴し、外国の文化に興味をもたせ、分かったことを記入させる。	
特別の教科 道徳	⑥、⑨	⑥学級内でディベートの話し合い活動を取り入れる。 ⑨自己内対話の時間を十分とり、多様な考え方の交流をし、自身の変化に気づけるように書く活動を大切にする。	

A・・・取組の効果が十分に見られた B・・・今後も課題として取り組む C・・・取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組

○授業研究の充実	・令和６年度・７年度は、『児童の「自ら学習を進める力＝自走力」を高める授業』～多様な学びに応じた授業の研究～を研究主題として、授業の実践を主とした研究を実施。
○読書活動の充実	・読み聞かせボランティアの活用。（お話玉手箱 全学級実施 月 １ 回） ・図書ボランティアによる季節に応じた図書室の掲示物作成。 ・全校ビブリオバトルの実施。（学期 １ 回）
○学習環境の整備	・学年ごと工夫した効果的な掲示物の作成。 ・国語、算数の授業方法と板書内容の統一。
○外国語活動の充実	・業間休みに ALT による ei-ei-go time（英語のアクティビティ）の実施。（年間通して全学級実施）
○学校応援団の活用	・様々な場面での学習支援。（昨年度は１年間でのべ１０００人以上が参加）

家庭教育との連携

○ほっとタイムの取組	・児童の学校生活や学習の様子を気軽に相談できる日の設定と活用。 ・学力に課題のある児童の保護者に対し、担任からの積極的な働きかけ。
○家庭学習の取組	・児童自らが積極的に楽しみながら家庭学習を充実させるため、「レッツ・チャレンジ自主学习」（略してチャレ学）を活用。
○家庭への発信	・保護者会や学年だよりで、学校・学級経営の方針等の伝達。 ・学校ホームページで、学校行事や学習の様子を発信。
○学校応援団による学習支援	・教育活動を安全で円滑にすすめることができるよう、様々な場面での学習支援。